

平成25年度 益田墓地公園 事業計画書

概況

平成24年度は、東日本大震災からの復興需要や政策効果の発現等により、夏場にかけて回復に向けた動きが見られた。しかしその後、世界経済の減速等を背景として輸出や生産が減少するなど、景気は弱い動きとなり、底割れが懸念される状況となった。こうした状況に対し、政府は、平成25年1月に「日本経済再生に向けた緊急経済対策」を策定した。本対策による政策効果に加え、世界経済の緩やかな持ち直しが期待されることから、我が国経済は緩やかに回復していくと見込まれる。物価の動向を見ると、緩やかなデフレ状況が続いている。

当法人の収入も前年度同様に東京三菱銀行に預けていた3,5億円のドル預金の利子収入で運営を頼っていたが、その収入も減少した。前年度同様に経費削減を行う経営を継続せざるを得ない状況になっている。この円高はしばらく継続するものとして考えざるを得ず、収入としては墓地の永代使用料収入に頼らざるを得ない状況になった。その為、平成23年12月より新たに墓地拡張計画を実行し、平成24年7月に新しい墓地97区画を新設した。以前の墓地より1区画当たりの面積を縮小し、永代使用料も見直しを図った。

そのおかげもあって、今年度の契約は順調に推移し、目標の16基を達成できた。新設墓地について募集広告を行う予定であったが、工事期間中より予約が多数あり、又、各石材業者の口頭宣伝によって予約の時点ですでに目標基数を超えそうであったため、募集広告は取りやめた。

また、前年度の秋に墓地公園全体でカラスによる被害が相次ぎ、墓参者へ注意喚起の意味で公園内5か所に看板の設置を行った。

公益法人として前年度同様に事業プランを作成して計画的な運営をすべき組織に構築をはかった。公益法人の認定を取得して、今では自信を持って公益法人としての活動を述べる事が出来る段階まで至った。今年も前年度の事業に沿って計画的に公益法人としての活動を進めていきたいと思うが、既に述べたように収入が大きく減少しており、経費を削減して緊縮予算で運営をする事として、事業の縮小も考えて計画を作成した。

(1) 永代使用契約者募集事業

昨年は33基の契約を締結する事ができて、目標基数に対して達成する事ができた。新規墓地のおかげで今年度も目標基数の達成は可能と見込んでいる。今年度は前年度と同様の募集事業を見込んでいる。従って募集広告も前年度の年3回配布予定より年1回の配布に変更し経費削減を図った。また、新たに大規模な拡張計画も考えており、2～3年後の工事に向けて案を作成している。

<p>(2) 永代使用契約者名簿管理事業</p>
<p>永代使用契約者の確認作業は実施してから4年目を迎えるが、前年度も全員の名簿の確認という事には至らなかった。今年も年間計画を作成して、まずは電話確認をして、その身確認者に関しては戸別訪問を継続して行く事とする。5年間の継続確認作業において、無縁墓地の対象の名簿に関しては、昨年に継続して顧問弁護士と、その対処に関して考え方をまとめたいと考えている。これにかかる予算は現状の管理総本部の人件費と確認のための葉書の切手代のみである。</p>
<p>(3) 墓地公園管理事業</p>
<p>前年度同様に、建設会社による月1回の定期巡回、報告を継続することとしている。補修作業については、前年度にクラック等の補修は完了しており、今年度について補修予定箇所は無い状況である。しかしながら継続的な巡回を行い、墓参者に常に安心感をもってもらうような公園であり続けなければならない。</p>
<p>(4) 公園環境整備事業</p>
<p>前年度もアジサイ、パンジー等の植え付けを計画的に行った。またアジサイ、ゼラニウム等も挿し木を行うことによって、数を増やすことを行なった。挿し木専用の畑も作成した。予算については前年度と同様の15万円を計上しているが、未だ植えつけていない箇所が多いため、今年度は空いている箇所に全て花木を植え付けるための費用として計上した。</p>
<p>(5) インターネットによる情報提供事業</p>
<p>昨年は花の季節ごとに開花情報を掲載して、地域住民の方に何時でも公園を開放して喜んでもらうべく進めた。そのお陰で公園の花を見に来られる人も増えたように思う。今年も花が段々と成長する姿を掲載して、タイムリーな情報の提供を心がける事としたい。これらの費用は管理本部の責任者の費用とネット管理費用である。</p>
<p>(6) 全体供養推進事業</p>
<p>定期預金の利息収入での運用を頼っていたが、前年度よりの円高の影響で経費削減しなければ運営に関わってくる事が大きく、全体供養については年2回の開催を予定しており、内容としては、当初は墓参者に記念品等を配布する予定であったが、経費削減のため寺院の方へのお布施代のみとすることとした。</p>
<p>(7) その他</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の休憩室を事務所として住所変更を行った。 2. 顧問契約を交わしていたが、今年よりそれは中止して経費の削減をはかった。 3. 補修工事費に関しては、補修箇所は現状では無いため、前年度と同様とした。 4. 募集広告費に関しても昨年より大幅な削減をはかった。 5. 新規契約目標は最低限目標として16基とした。